

平成 20 年度
福山大学 F D 講演会
報告書

主催 福山大学

(自己評価委員会・FD部会)

平成 2 1 年 2 月

平成20年度 福山大学 FD 講演会

自己評価委員会 FD 部会

演題：

潜在的な問題をかかえる学生への対応

講師： 大西 理恵子 先生

(福山大学人間文化学部心理学科)

日時：平成21年2月25日(水) 13:30～15:00

場所：1号館1階 01101

対象：全教員(助手を含む)

講演の後、学生指導などについて大西先生を囲んでの座談会。

(30分程度、場所：01111セミナー室)

「潜在的な問題をかかえる学生への対応」

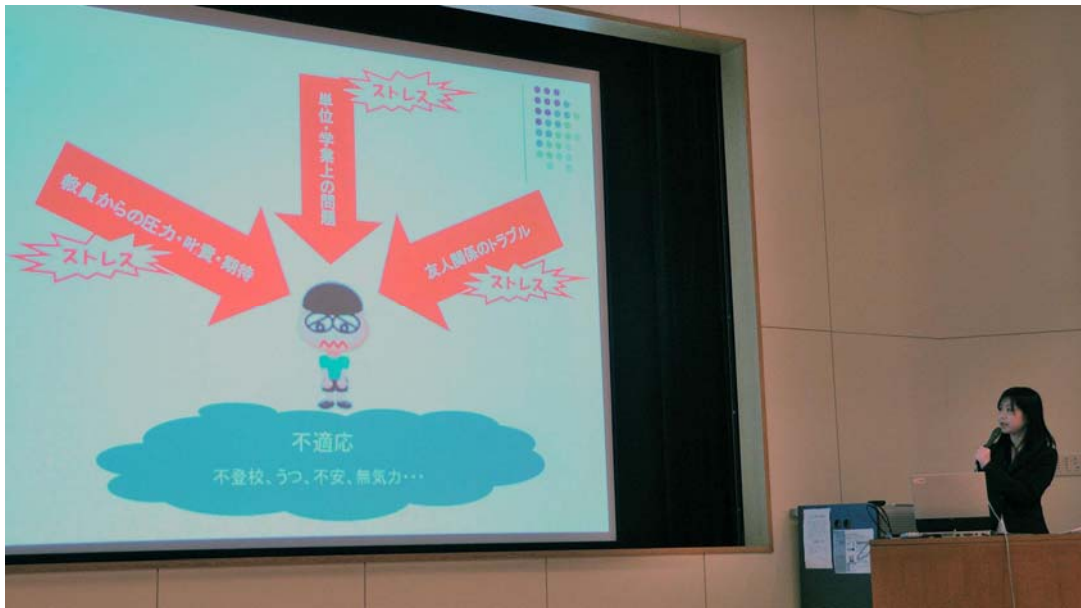
福山大学人間文化学部心理学科
大西 理恵子

要旨

近年、大学生における大学生活不適應の増加が指摘されており、これまで中学生や高校生に見られたような不登校を中心とする不適應状態が大学生にまで拡大していると言われている。「全入時代」と呼ばれるような大学進学率の増加、入学試験方式の多様化などにより、大学生の特徴も多様化し、自己不確実感や不全感を抱え、友人や教員との対人関係が築けない、学内での居場所を見つけられないなど、高校までの発達課題が達成されないまま大学に移行し、適應に大きな困難を感じている学生が増えているとされる。不適應の客観的指標としては、退学率や休学率の高さが挙げられるが、国立大学 86 大学・学部に対する調査では、平成 12 年度の平均休学率は 2.54%（最大 17%）で、平成 7 年度から急増傾向にあり、平均退学率は 1.61%（最大 8.3%）で、平成 6 年から増加傾向にあることが見いだされている。また、退学や休学などの明らかな問題が見られない学生においても、うつ傾向や不安傾向を高く示す学生は多く、不適應予備軍とも言える学生が多数在籍していると言える。

このような背景を受けて、全国でメンタル・ヘルスに関する実態調査が多数実施されてきた。その結果、退学者は入学直後に志望学部・学科の悩みや、生き方の悩み、人数は少ないながらノイローゼ気味と訴える傾向があること、入学後の早い段階から不登校などの不適應行動が現れ、結果として退学や休学につながる可能性が高いことが見いだされている。このように、潜在的な不適應状態と言える学生は比較的早期から何らかの兆候が見られる可能性が高く、学生と直接にかかわる教員においてもコミュニケーション能力を高め、問題の早期発見・早期予防を行っていく必要があると考えられる。

講演会では、このような視点から、教員－学生間のコミュニケーションに焦点を当て、学生への理解の向上、より良いコミュニケーションのあり方について考えることを目的とする。



F D 講演会



講師（大西理恵子先生）



F D 講演会



司会（泉 潤慈先生）



座談会

〔写真：西尾廣昭教授 提供〕

平成20年度FD講演会報告

FD部会委員 泉 潤慈

(経済学部税務会計学科)

1 講演概要

- ① 相手のことを知ろうとしているか。知ろうとすることから良いコミュニケーションが生まれる。「学生の名前、どれくらいわかりますか?」
- ② アサーティブなコミュニケーション（相互尊重のコミュニケーション）がよい。
率直に正直に自分の思いを話す。相手の意見も聞く。
- ③ ほめることが大事である。
- ④ しかる場合の留意点はつぎのとおりである。
イ 一つの内容については、批判を一回とする。
ロ 事実とデータに基にして批判をする。
ハ 事実+自分の気持ちを添える。
ニ メンツをつぶさないよう配慮する。
ホ 直接本人に伝える。
小出しに自分の意見を伝えることも大事である。
- ⑤ 自分の気持ちを伝えるための技法として“Iメッセージ”（アイメッセージ＝私メッセージ）やDESC法がある。
DESC法（課題解決に役立つ自己表現）
Describe 描写する
Express Explain Empathize 表現する 説明する 共感する
Specify 提案する
Choose 選択肢を考える。
- ⑥ 「考え方のくせの働き（A-B-C理論（論理療法）、認知行動理論）とうまくいかない考え方のくせ」がある。コミュニケーションにおける考え方が重要である。
「～であってほしい。～であるべきである。（FD講演会ワークシート）」
にこだわらず、柔軟な考え方が大事である。
- ⑦ 学年ごとの悩みの特徴を説明する。

2 感想

コミュニケーションのための大事な点、関心事項を網羅した講演で、わかりやすく、大変いい講演であった。特に、相互尊重のコミュニケーション及びそれを実現するための自己表現法（DESC法）が特に参考になりました。

出席者（約120名）全員熱心に清聴しており、皆の関心の高い問題であることがうかがえた。

3 配付資料

FDワークシート 1枚

以上

平成21年2月

平成21年3月

企画・編集・発刊

福山大学自己評価委員会 FD 部会

〒729-0292

福山市学園町一番地三蔵

電話 084-936-2111 (大学代表)